

[専門教育科目/看護の統合と発展]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護総合実習	NSP44_001	必修	2	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小林 美雪 他	407	m.kobayashi	実習中に実施		
授業の目的・概要	4年前期までの講義・演習・実習で学んできた知識と技術を統合し、安全で質の高い看護を提供するための、臨床判断能力と看護実践力を養う。本実習では看護チームがリーダーシップ、メンバーシップを発揮し多重課題の解決および安全に配慮した看護管理・看護活動の実際を学ぶ。遠隔授業と分散型対面授業による実習を通して、各自が取り組んでいる疑問・課題を深める機会にする。				
学習上の助言	4年前期までに学んだ内容の疑問・課題を明らかにする準備として、看護管理とは何か、看護チームにおける多重課題、医療安全等について復習しておく。				
教科書	担当教員から適宜提示する。				
参考書	担当教員から適宜提示する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護チームにおける看護管理を理解できる。		NS(2)(5)(6)		
②	看護チームにおけるリーダーシップ、メンバーシップを理解できる。		NS(2)(4)(5)		
③	複数患者・利用者ニーズを把握し優先順位に基づき安全に配慮した看護実践ができる。		NS(1)(2)(5)		
④	チームの一員として専門職を目指す責任ある行動がとれる。		NS(5)(6)		
⑤	総合実習を通して卒業後の課題を明確にできる。		NS(1)(5)(6)		
授 業 計 画					
1. 実習目的・目標・展開等は、看護総合実習要項参照					
2. 実習期間 2020年7月～8月(2週間) 詳細は実習要項参照					
3. 実習方法 分散対面授業あるいは同時双方向型授業 詳細は実習要項参照					
実習日	曜日	実習スケジュール ※①1G～4G ②5G～7G			
1	月	オリエンテーション			
2	火	病院/病棟管理：認定看護管理者の講義①	病院/病棟管理：認定看護管理者の講義②		
3	水	安全管理・感染管理①	安全管理・感染管理②		
4	木	リーダーシップ・メンバーシップ講義①	リーダーシップ・メンバーシップ講義②		
5	金	まとめと次週についての学習			
6	月	多重課題(その1)の事例の把握・行動計画の立案			
7	火	多重課題(その1)の実施			
8	水	多重課題(その2)の事例の把握・行動計画の立案			
9	木	多重課題(その2)の実施			
10	金	最終まとめ			
3-1)実習目標を達成する具体的方法					
(1) 病棟管理の理解					
①認定看護管理者による講義					
②看護管理演習(GW)					
(2) 安全管理・感染管理の理解					
①看護職の専従医療安全管理者・感染管理者による講義					
②KYT(危険予知トレーニング) 5S等の演習					
(3) リーダーシップ、メンバーシップの理解					
①看護師長、地域包括ケア看護職による講義					
②リーダーシップ、メンバーシップに関する演習、看護実践場面での応用(演習)					
(4) 複数患者のニーズを把握して優先順位を考えられる(多重課題)					
①課題について、模擬病棟で看護の実践を行う。※シミュレーター、シミュレーションシナリオを使用					
②実施後、患者役の教員の評価と各役割の学生からの感想を共有する。					
(5) 卒後の課題の明確化					
①レポートの作成と発表により行う。					
4. 評価方法 課題レポート、実習等への参加状況等を総合して評価する。					

[専門教育科目/看護の統合と発展]

事前事後学習内容・必要時間(時間)							
<ul style="list-style-type: none"> 事前課題レポートを通して、これまでの講義・演習・実習での学びを統合し、事前課題レポートに取り組む。 看護総合実習の目的・目標を達成するための学習を自主的にを行い、実習に臨むこと。 事後課題レポートすることにより、今後の看護職としてあり方を考える機会とする。 							
必要時間： 30時間							
達成度評価							
総合評価割合(%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	65	0	20	15	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	10	0	10	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	5	0	10	5	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	20	0	0	10	30
問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10	
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					フィードバックの方法
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①	✓	事前・事後レポートにおいて、自己の課題を明確にできる。実習中は、それぞれの実習内容に合わせて課題達成に取り組むことができる。自己の課題達成のために、Teamsあるいはメール等で担当教員を効果的に活用して作成する。				実習の達成課題や実習内容に合わせた助言および実習前の自己の課題の達成状況から今後の看護師としての取り組みへの助言を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
ポートフォリオ	①	✓	本実習に必要な資料の収集と活用について評価する。				内容を確認し助言する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
その他	①	✓	体調を整え積極的に実習に参加し、チームの一員としての自覚を持ち実習を行う。				参加観察、患者への看護援助、看護師や学生とのコミュニケーションの状況を見ながら助言する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
担当教員：◎小林 美雪 看護学部教員(公衆衛生看護学以外)							
教員の実務経験： 教員は看護経験および教員経験豊富である。 実践的授業の内容： 実務経験のある教員の指導のもと、学びを深める。							
<ul style="list-style-type: none"> 分散型対面授業あるいはTeamsを使った実習を行う予定です。 Teamsを使った同時双方向型授業に際しては、通信容量が無制限のWifi環境を推奨いたします。 新型コロナウイルス感染症の状況などの社会情勢により再度シラバスの変更があることも考えられますが、その際は随時、お知らせいたします。 							